

あいち健康福祉ビジョンの概要

第1章 ビジョンの策定

1 これまでのあいちの健康福祉 「21世紀あいち福祉ビジョン」の 推進

計画期間
平成13年度～22年度

基本目標
自立と自己実現を支える福祉

3 新たなビジョンの策定

名称
あいち健康福祉ビジョン

計画期間
平成23年度～27年度

内容
医療分野を含め健康福祉全般を対象
「都道府県地域福祉支援計画」と「都道府県障害者計画」の性格を併せ持つ

2 これからの社会の動き

超高齢社会の到来

- ・平成27年には4人に1人が高齢者（平成22年は5人に1人）
- ・平成37年には75歳以上人口が倍増（平成22年：661千人 平成37年：1,164千人）

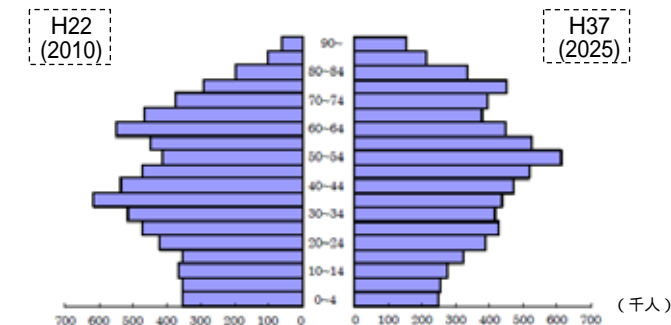
区分	愛知県 全人口 (千人)	年齢3区分別人口(千人)				高齢化率	
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち 75歳以上	(65歳以上 の割合)	うち 75歳以上
H22(2010)	7,417	1,079	4,833	1,505	661	20.2%	8.9%
H27(2015)	7,481	1,028	4,672	1,781	793	23.8%	10.6%
H37(2025)	7,444	887	4,594	1,963	1,164	26.4%	15.6%

資料：H22「あいちの人口(平成22年10月1日現在)」, H27・37「政策指針2010 - 2015」による推計

少子化と人口減少社会の到来

- ・平成22年合計特殊出生率は1.46（昭和46年は2.28）
- ・今後人口は減少に転じ、平成37年には生産年齢人口2.3人で高齢者1人を支える社会となる（平成22年は3.2人で1人）

本県の人口ピラミッド(男女計)



家庭の変化

高齢者のみの世帯や
ひとり親世帯の増加
家庭・家族のつながりの希薄化

地域社会の変化

地域のつながりの希薄化
NPOなどによる支え合い活動の活発化

健康福祉ニーズの 多様化・複雑化

働き方・家族形態・価値観などの多様化によるニーズの多様化・複雑化

安心を支える社会システムへの信頼感の低下

医師不足により約2割の病院で診療制限
毎年1,500人前後の県民が自殺
新型インフルエンザのまん延
生活保護受給者の増(10年間で2倍)
年金など社会保障制度の持続可能性への不安

地方分権の進展

国・県・市町村の役割分担の見直し、市町村主体の健康福祉サービスの提供
多様な主体の協働

家庭や地域のつながりの希薄化に対応し、一人ひとりの尊厳を守りながら、予防や早期対応により事態の深刻化を防ぎ、限られた資源を有効に活用

かつてない少子高齢化、命を守る医療などに地域社会全体で対応

第2章 基本とする考え方

1 基本理念

(目指すべき健康福祉社会像)

ともに支え合う安心・健やかで
幸せなあいち～『あいち健幸社会』
の実現

2 基本とする視点

(各分野の取組に共通する留意点)

家庭の機能を支える
地域全体で支え合う
一人ひとりの生き方と可能性を尊重する
予防・早期対応を重視する
持続可能なシステムを構築する
役割分担を明確化する

第3章 施策の方向

第1節 福祉

高齢者がいきいきと暮らせる社会へ
子どもと子育てにやさしい社会へ
障害のある人が安心して暮らせる地域社会へ

第2節 保健・医療

誰もが健康で長生きできる社会へ
必要な医療が受けられる社会へ

第3節 地域

健康福祉の地域力が充実した社会へ

詳細は次頁以降に記載

第4章 ビジョンの推進

「健康福祉ビジョン推進本部」における年次レポートの作成により、進捗状況を把握・評価し、公表するとともに、社会状況の変化にも対応

「圏域保健医療福祉推進会議」の活用等により地域の実情に応じて推進